

様式（文部科学省ガイドライン準拠版）

平成29年度  
自己評価報告書

平成30年3月31日現在

高知リハビリテーション学院

# 目 次

本書の使い方.....	1	基準4 学修成果.....	25
1 学校の理念、教育目標.....	2	4-13 就職率.....	26
2 本年度の重点目標と達成計画.....	3	4-14 資格・免許の取得率.....	27
3 評価項目別取組状況.....	4	4-15 卒業生の社会的評価.....	28
基準1 教育理念・目的・育成人材像.....	5	基準5 学生支援.....	29
1-1 理念・目的・育成人材像.....	6	5-16 就職等進路.....	30
基準2 学校運営.....	8	5-17 中途退学への対応.....	31
2-2 運営方針.....	9	5-18 学生相談.....	32
2-3 事業計画.....	10	5-19 学生生活.....	34
2-4 運営組織.....	11	5-20 保護者との連携.....	36
2-5 人事・給与制度.....	13	5-21 卒業生・社会人.....	37
2-6 意思決定システム.....	14	基準6 教育環境.....	39
2-7 情報システム.....	15	6-22 施設・設備等.....	40
基準3 教育活動.....	16	66-23 学外実習、インターンシップ等.....	42
3-8 目標の設定.....	17	6-24 防災・安全管理.....	44
3-9 教育方法・評価等.....	18	基準7 学生の募集と受入れ.....	46
3-10 成績評価・単位認定等.....	21	7-25 学生募集活動.....	47
3-11 資格・免許の取得の指導体制.....	22	7-26 入学選考.....	49
3-12 教員・教員組織.....	23	7-27 学納金.....	51
		基準8 財務.....	52
		8-28 財務基盤.....	53
		8-29 予算・収支計画.....	55
		8-30 監査.....	56

8-31	財務情報の公開.....	57
<b>基準9</b>	<b>法令等の遵守.....</b>	<b>58</b>
9-32	関係法令、設置基準等の遵守.....	59
9-33	個人情報保護.....	60
9-34	学校評価.....	61
9-35	教育情報の公開.....	63
<b>基準10</b>	<b>社会貢献・地域貢献.....</b>	<b>64</b>
10-36	社会貢献・地域貢献.....	65
10-37	ボランティア活動.....	67
<b>4</b>	<b>平成29年度重点目標達成についての自己評価.....</b>	<b>68</b>

## 本書の使い方

- 1 本書は平成25年3月、文部科学省が策定・公表した「専修学校における学校評価ガイドライン」（以下、「ガイドライン」という。）に示された「項目別の自己評価表(例)イメージ」及び「自己評価における評価指標・観点・参考資料一覧表(イメージ案)」などを参考に全体を構成しました。  
また、評価項目は、特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構(以下「機構」という。)がガイドラインに準拠して制定した「専門学校等評価基準書 Ver4.0」を適用しています。
- 2 従来の「評価項目別取組状況」に「学校の理念・教育目標」、「年度の重点目標と達成計画」、「年度の重点目標達成についての自己評価」を加えることにより、ガイドラインに示されているPDCAを活用した自己評価を進めることができるようになっています。
- 3 ガイドラインでは、「項目別の自己評価表(例)イメージ」において取組状況を1から4の評語を用いて自己評定する様式を例示しています。このことから、本書でも「評価項目別取組状況」の小項目毎に評定欄を加えました。評語の考え方の例は、以下のとおりです。但し、評定については学校ごとの考え方により実施しない学校においては評定欄を削除してお使いください。

### ※評語の意味

- 4 適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
- 3 ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1 全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

- 4 本書は、学校関係者評価を円滑に進めるために、記述のうち「学校の理念・教育目標」、「年度の重点目標と達成計画」、「年度の重点目標達成についての自己評価」など部分的にピックアップして評価を行うことができるように構成していますので、学校関係者評価実施においても活用できます。
- 5 本書はワード形式で作成しています。学校の考え方により適宜変更して使用してください。ご不明な点につきましては、機構事務局までお問い合わせください。

連絡先 03-3373-2914 info@hyouka.or.jp

# 1 学校の理念、教育目標

教育理念	教育目標
<p>学校法人高知学園の教育のシンボルである「世界の鐘」の呼び掛ける「平和と友愛」の精神、また学校法人高知学園の建学の精神「至誠を持って事にあたり、人や社会に信頼される人物の育成」が高知リハビリテーション学院の教育の礎となっている。</p> <p>そして、本学院の教育理念については、毎年年度はじめに学生に配布する「学生便覧」の学則の冒頭に明記し、また教職員についても毎年度はじめに配布する「実務必携」の基本方針、重点目標の中に明記し、周知徹底を図り、教職員一同はこれに則り行動している。</p> <p><b>【教育理念】</b>            医学的リハビリテーションに関する高度で専門的な知識と技能を修得した、至誠心に富み、信頼される「理学療法士」「作業療法士」「言語聴覚士」を育成する。</p> <p>学則第1条には、本学院の目的が記載されており、上記の「学生便覧」に学則全文が明記されているので、こちらも周知徹底は図られている。</p> <p><b>【学則】</b>            (目的)            第1条 本学院（以下「学院」という。）は、リハビリテーション技術者として必要な知識及び技術を修得させるとともに、広い教養ある社会人を育成することを目的とする。</p>	<p>理念に則り、リハビリテーション技術者としての理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の育成を行うとともに、本学院の重点目標にも掲げているように地域リハビリテーションや在宅ケア、介護予防等の国の社会保障政策を見据えた実践教育の推進、人を支援するセラピストとして必要な常識・モラル・態度といった心豊かな人間性を育てることを教育目標の柱としている。</p> <p>また、本学院は地方自治体の支援により新築移転したという経緯を持つため、その移転動機には地域に貢献する優秀なセラピストを養成することが含まれている。従って、本校での教育は前二者を踏まえたうえで、国家資格の取得はもとより、専門的な知識・技術・、実践的なスキルを身につけた理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の養成を目指す。</p>

## 2 本年度の重点目標と達成計画

平成28年度重点目標	達成計画・取組方法
<p><b>1. 基本方針</b>            医学的リハビリテーションに関する高度で専門的な知識と技能を修得した、至誠心に富み、信頼される「理学療法士」「作業療法士」「言語聴覚士」を育成する。</p> <p><b>2. 重点目標</b>            経営上の重点目標である「先進・進取の伝統の継承と発展」「目的意識をもつ学生の確保」「有為な人材、信頼される療法士の育成」「先駆的な教育・研究環境の整備」「地域とともに歩む学院づくり」を推進していくため、特に、次の取り組みに力を注いでいく。なお、平成28年度に発表された国の「中央教育審議会」の答申にある専門職業人養成のための新たな高等教育機関については、どのような教育体系化がなされるのか、その内容も含め情報収集等に努めていく。</p> <p>(1) 先進・進取の教育の推進            平成30年には開学50周年を迎える。全国に先駆けて医学的リハビリテーションをもつわが国の職業教育に導入した本学院の先見性と培われてきた伝統を継承し発展させていくため、教育に当たっては、変容する人口構造をはじめとした社会情勢の変化に対応していく、柔軟な発想と思考性のもとでのカリキュラムの編成や授業の展開等に努めていくとともに、地域リハビリテーションや在宅ケアなど、国の社会保障政策を見据え、かつ先進的、実践的な教育を推進していくことにより、時代が求める人材を育成していく。</p> <p>(2) 目的意識を持つ学生の確保            高等職業教育のもとで高度で専門的な知識と技能を修得していくためには、入学時において目的意識のしっかりした学生の確保が肝要である。そして、このためには、療法士としての社会貢献度などの理解や職業観醸成につながる情報の発信が大切であることから、こうした広報活動を積極的に行っていくとともに、オープンキャンパスなど、直接体験する機会を多く提供していくことも求められるため、高等学校の進路担当セクションへの訪問の強化を図り、また、県内はもとより中・四国での進学説明会を重点的に展開していくなど、関係団体との連携した取り組みを推進していく。</p> <p>(3) 有為な人材の育成            高度で専門的な知識と技能を修得し、医療等の職場に即応できる有為で信頼される人材を育成していくため、学生一人ひとりに応じ、4年間での到達度を設定したプログラムをもとに個別指導を深化させ、スタディ・ソーシャル双方のスキルをアップさせていく。また、国家試験対策については、傾向分析と対策の徹底・強化に努めるとともに、教員の研鑽・研修等を推進し、指導力を一層向上させ全員合格を目指す。</p>	<p>(1) 先進・進取の教育の推進            国の社会保障政策を見据えた授業科目の設定、医科学の進展に合わせた実習や演習の展開を図るとともに、教員の教授力の向上、資質を磨く研究活動の推進に努めた。            教育環境の面では、3カ年で進めてきた最先端の教育システムの導入・整備の最終年として、言語療法学科に脳機能評価システム、コミュニケーションロボットなどの導入を図った。</p> <p>(2) 目的意識を持つ学生の確保            県内外の学校訪問や出前講座の開催、また、県内高校進路指導教員を対象にした学校説明会には30校(32名)の出席を得た。オープンキャンパスは、年間6回開催するとともに、高校をはじめ各地での進学相談会といった取り組みを積極的に推進し、この中で、高齢化の進展と地域包括ケアといった社会の趨勢を踏まえリハビリテーションの重要性、療法士の役割などの説明を行うことで職業観の醸成とその浸透に努めた。力を注いでいるオープンキャンパスでは体験授業や学校ガイダンスに時間をあててきたが、平成29年度は、472名の来校者を数えたものの、平成30年度の入学者は、118名にとどまった。</p> <p>(3) 有為な人材の育成            専門技能の習得に欠かせない教育機器の導入を促進するとともに個人学習プログラムに基づく学生教育を進めるなど、一人ひとりと向き合った指導育成に努めた。高知高校とのフェローシップ(10名)による一貫した人づくりを推進し、基礎的医療知識の修得と職業観を持った学生リーダーの育成を図った。            国家試験については、106名(新卒)が合格(合格率85%)であり、言語療法学科で前年度を上回る成績であったが、理学、作業療法学科では下回る成績となった。今後とも全員合格を目指し、徹底した対策を講じていく必要があるため、基礎専門教科の習熟度の評価をはじめ1年次から全学科あげての対応を進めている。</p>

### 3 評価項目別取組状況

## 基準 1 教育理念・目的・育人人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本学院は学校教育法第 124 条の趣旨に則り、医学的リハビリテーションに関する高度で専門的な知識と技能を修得した至誠心に富み社会から信頼される理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を育成することを教育理念とし、またセラピストとして必要な常識・モラル・態度といった心豊かな人間性の獲得も教育目標の一つとして掲げている。</p> <p>対人援護職、医療職のあるべき姿を念頭においた理念・目的・育人人材像は学則、学務分掌、学校案内、学生便覧等に明記されており、また学院だより、学生へのオリエンテーション、保護者会、臨床実習指導者連絡協議会等を通して学校の将来構想とともに学生・保護者・関連業界に伝えている。それらを達成するために教務運営実務委員会を開きカリキュラムが検討され授業が実施されている。時代の変化に即応すべく教育課程編成委員会等で検討され修正を加えながら、平成 29 年度から新規カリキュラムでの授業を開始することにしている。</p> <p>カリキュラムの総仕上げとして、臨床実習を課しているが、医療をはじめ福祉分野の関連企業の協力、そして卒業生の支援をいただき充実した臨床実習体系となっている。今後、より関連業界と学校との連携が充実するように実習施設を設定していきたい。</p>	<p>平成28年度に引き続き、解剖学、生理学、運動学といった基礎教育科目の教育方法の見直しと内容の充実に取り組む。</p> <p>また、地域リハビリテーションや在宅ケア、介護予防等、国の社会保障政策も見据えたカリキュラムの編成や臨床に即したシミュレーション教育の導入、地域包括ケア等、臨床現場や地域医療のニーズとの整合性のあるカリキュラムの再編作業を行う。</p> <p>臨床実習施設は、施設と学校との緻密な連携が取れるように、県内、近隣県の実習施設の開拓に取り組むと共に卒業生との連携強化を図る。</p> <p>今後、社会情勢に対応するため、様々なメディアを通して医療・保健・福祉の情報を収集することで、理念、目的を継続的に検討し教育に反映していくとともに、既存ホームページ、パンフレットの見直し、ならびに新規リーフレット等で本校の特色ある教育内容を周知していく。</p>	<p>本学院は、「地域社会に貢献をする力」「人とのコミュニケーション能力と協調性」「自然環境や地域文化の豊かさに育まれた人間性と倫理観」を備えたセラピストを育てること、特に「地域との交流を図り、コミュニケーション能力を向上させ、人との協調を大切にすること」について、開校以来、取り組んでいる。</p> <p>人口減少や少子高齢化が進む、周辺環境の中、地域住民と関わる機会は多く、そのことが臨床実習や卒業後の臨床場面での患者さんとの関わりに役立っており、学生・卒業生に対する社会の評価は高い。また、手つかずの自然環境や和紙をはじめとした伝統と地域文化は情操教育に役立ち、4年間の学業に取り組む姿勢が培われる。本学院の学生の人間性に対する高評価はこれらに負うところが大きい。</p> <p>本学院では開学以来49年間、伝統校として常に充実したカリキュラム・施設・設備をもって教育に取り組んできているが、平成27年度からを得て教育課程編成委員会を設置し、臨床現場のニーズと教育課程編成委員会の意見を参考に、さらに臨床現場や地域医療等のニーズとの整合性のあるカリキュラムの再編成を行う予定である。</p>

最終更新日付

2018年3月31日

記載責任者

大倉 三洋



## 1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	<input type="checkbox"/> 理念に沿った目的・育成人材像になっているか <input type="checkbox"/> 理念等は文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 理念等において専門分野の特性は明確になっているか <input type="checkbox"/> 理念等に応じた課程（学科）を設置しているか <input type="checkbox"/> 理念等を実現するための具体的な目標・計画・方法を定めているか <input type="checkbox"/> 理念等を学生・保護者、関連業界等に周知しているか <input type="checkbox"/> 理念等の浸透度を確認しているか <input type="checkbox"/> 理念等を社会等の要請に的確に対応させるため、適宜、見直しを行っているか	4	<p>本学院は、学校教育法に従い、高度で専門的な知識と技能を修得した至誠心に富み社会から信頼される人材の育成を教育の根幹に置き、医療・保健・福祉サービスの向上や健康の増進に寄与するための専門知識・技術を研究・教授している。これらの理念や目標を具現化するとともに社会の要請も踏まえながら、年度ごとに「重点目標」を定めた、「事業計画」を毎年作成している。このことは機会あるごとに保護者会をはじめ関係者に周知し、浸透に努めている。</p>	<p>幅広い年代層とのコミュニケーション能力や課題を発見し自分で解決する力を併せて養成することが求められ、こうしたいわば人間力を形成していく過程が求められている。</p>	<p>専門分野ごとの教育課程の検討を行っていくことにしている。</p>	<p>学生便覧 ホームページ 法人理事会 評議員会議事録 教授会議事録 業務必携（職務分掌含む） 学院報 入学案内</p>
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	<input type="checkbox"/> 課程（学科）毎に関連業界等が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にしているか <input type="checkbox"/> 教育課程、授業計画（シラバス）等の策定において関連業界等からの協力を得ているか	4	<p>人材の育成にあたっては関連業界と個々に意見交換を行うとともに全国の関係者を招聘し研修や研究発表なども行ってきており、これらを踏まえた教育や授業計画の策定に対応に努めている。</p>	<p>養成校の急激な増加により企業（臨床現場等）が求める現場で必要とされる専門職を養成する実践的な教育課程の編成が必要である。</p>	<p>教務運営実務委員会及び教育課程編成委員会等で検討し、新規カリキュラムの編成作業を進めている。</p>	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
1-1-2 続き	<input type="checkbox"/> 専任・兼任（非常勤）にかかわらず教員採用において関連業界等からの協力を得ているか <input type="checkbox"/> 学内外にかかわらず、実習の実施にあたって、関連業界等からの協力を得ているか <input type="checkbox"/> 教材等の開発において、関連業界等からの協力を得ているか		<p>教員の採用にあたっては関連業界からの協力を得るとともに、教材の開発などにおいても連携した対応に努めている。</p> <p>臨床実習にあたっては、全国の医療をはじめ福祉分野の関連企業の協力を得て行っている。</p>			
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 特色ある職業実践教育に取り組んでいるか	4	各学科において現場での実習を取り入れ実践的な教育を行っている。	職業実践課程への取組みにさらに活かしていく必要がある。	専門分野ごとの教育課程検討の場を設けるなどの取り組みを行って行くことにしている。	
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	<input type="checkbox"/> 中期的（3～5年程度）視点で、学校の将来構想を定めているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を教職員に周知しているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を学生・保護者・関連業界等に周知しているか	4	<p>3か年経営方針を定め、教職員に周知徹底している</p> <p>また、これらのことは機会あるごと関係者に周知してきている。</p>			経営方針
<b>中項目総括</b>				<b>特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）</b>		
<p>理念・目的・育成人材像に関しては、誰もが理解し易い言葉で表現している。本学院の目的は医療や福祉現場の人材育成である。また、知識・技術・人間性が問われる職種なので現場からのニーズ、実習先からの評価を的確にとらえていく必要がある。</p> <p>現在、本学院においては、学生数の将来予測なども踏まえ、教育の質の向上、定員充足、国家試験全員合格などの重要課題への対応策を策定し実行をしている。今後ともこうした取組に力を注いでいくことが重要である。</p>				<p>開学49周年を経過し、多くの卒業生達が医療・保健・福祉・教育の現場で活躍し、社会の発展に貢献している。今後、卒後教育の重要性を含めて、臨床と教育の更なる連携強化が人材育成上での重要な課題であり、このことに一層深化した対応に努めていく必要がある。</p> <p>一方、本学院は理学療法学科、作業療法学科、言語療法学科の3学科を設置・運営していることから多様な学生間の交流の機会が得られることや、教員間においてもそれぞれの専門性の交流において相乗的な効果が得られているのも特色の一つである。</p>		

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	大倉 三洋
--------	------------	-------	-------

## 基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本学院は我が国の私学では初のリハビリテーション専門職養成校として昭和 43 年に開学、来たる平成 30 年には創立 50 周年を迎える。当初は理学療法学科単科であったが、平成 5 年に作業療法学科を、平成 9 年には言語療法学科を増設した。</p> <p>現在まで、2,898 名を超える卒業生を輩出、北海道から沖縄に至る全国で活躍している。近年、医科学の進展等に伴いリハビリテーション分野では専門養成校のみならず大学においても人材育成が行われるなど、少子化が進む中、定員の確保が今後における大きな課題となってくる。</p> <p>また、専門職に必要な知識・技能を身につけていくためには、自らの職業観を持った学生の確保に努めていくことが肝要であり、このことが入学後の進路変更をなくし、国家試験合格へと結びついていくものであることから、これらに対する取り組みに、一層、注力していくことが必要となっている。</p>	<p>専門職の紹介と浸透に努めつつ、定員の確保を図っていくためには、オープンキャンパスへの来校を促していくことが有効である。このため、高校 2 年生を対象にした 3 月開催も含め、開催を年 6 回とし、その内容も模擬授業をはじめ体験学習型を中心にしたものにしていく。高校生を対象にした進路相談会を開催するとともに専門の職員を配置し県内はもとより四国 3 県の高等学校への訪問活動を積極的に展開している。</p> <p>また、進路担当教員を本学院に招き、学科紹介を行う取り組みを行っており、県内約半数の高等学校から、教員が来校している。</p> <p>不合格者が一部見られる国家試験については、国家試験対策室を中心に、知識・技能の系統的・総合的な習得に必要な指導の徹底に努めている。また、専門基礎分野などの授業強化を図るためカリキュラムを平成 29 年 4 月より変更した。</p>	<p>本学院は県内で唯一、幼稚園から短期大学まで総合的に運営する学校法人の一部門として医療専門職の養成にあたっている。</p> <p>特色として、高等学校部門において本学院に進学を希望する生徒をフェロシップ制度として選抜し、2 年生から専門基礎学習などを行ってきている。約半世紀にわたり養成校として人材を育成してきていることから、全国の病院等で卒業生が活躍している。このため、臨床実習にあたっては多くの施設との連携が図れている。</p> <p>平成 29 年 5 月に学校教育法が改正され、新たな学校種として専門職大学が創設された。これは高度な専門技術の修得など、次代を切り拓く創造的な人材の育成を目指す高等教育機関に位置付けられており、今後の本学院の方向性と軌を一にしていることから、大学に再編すべく平成 29 年 11 月に認可申請を行い文部科学省と協議している。平成 31 年 4 月の開設を目指している。</p>

最終更新日付

2018 年 3 月 31 日

記載責任者

池田 敏宏

## 2-2 運営方針

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-2-1 理念等に沿った運営方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 運営方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針は理念等、目標、事業計画を踏まえ定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針を教職員等に周知しているか <input type="checkbox"/> 運営方針の組織内の浸透度を確認しているか	4	経営指針として運営方針を明文化し。教職員に文書で徹底している。	経営指針は3カ年のものであり、毎年フォローアップしている。	経営指針のもと毎年、事業計画を策定し、教職員に実務必携として周知徹底している。	経営指針 事業計画 実務必携

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
運営方針となる経営指針のもと、毎年事業計画を策定し、年度当初に教職員に徹底している。	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	池田 敏宏
--------	------------	-------	-------

## 2-3 事業計画

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	<input type="checkbox"/> 中期計画（3～5年程度）を定めているか <input type="checkbox"/> 単年度の事業計画を定めているか <input type="checkbox"/> 事業計画に予算、事業目標等を明示しているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期・内容を明確にしているか	4	<p>3カ年計画の経営指針を定めている。このもとで毎年事業計画を策定し、重点目標を示して、取り組んでいる。</p> <p>計画は教育研究や学生募集といった実務の分担を明確にしたもので、毎年見直している</p>	経営指針も毎年フォローアップしている	事業計画は毎年策定しており、実績に基づき、次年度の計画づくりを進めている。	経営指針 事業計画

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中期計画及び単年度の事業計画を策定し、毎年見直している。	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	池田 敏宏
--------	------------	-------	-------

## 2-4 運営組織

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	<input type="checkbox"/> 理事会、評議員会は、寄附行為に基づき適切に開催しているか <input type="checkbox"/> 理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成しているか <input type="checkbox"/> 寄附行為は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	4	<p>寄付行為に基づいて、理事会等の審議を行い、議事録の作成等も適切な運営に努めている。</p> <p>改正も必要に応じ対応している。</p>	<p>学校法人として理事会等を開催している。</p>		<p>寄付行為 議事録</p>
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校運営に必要な事務及び教学組織を整備しているか <input type="checkbox"/> 現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備しているか <input type="checkbox"/> 各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の決定権限、委員構成等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の議事録（記録）は、開催毎に作成しているか <input type="checkbox"/> 組織運営のための規則・規程等を整備しているか <input type="checkbox"/> 規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	4	<p>学校運営にあたる組織・諸規定を整備し、所掌の分担等を明確にすることとともに、設置している委員会には規程等を備えている。</p> <p>改正も必要に応じ対応している。</p>	<p>定例的に教授会を開催し、必要な事項について審議しているが、委員会の一部では開催状況が乏しいものもあり、活性化が必要なものの改編も検討している。</p>	<p>委員会設置当初との状況比較等を行い、必要なフォローアップをしていく。</p>	<p>学 則 組織規定等諸規定 各委員会規程 教授会議事録</p>

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-4-2 続き	□学校の組織運営に携わる事務職員の意欲及び資質の向上への取組みを行っているか		事務職員については資質の向上等を図る研修への派遣等、意欲を喚起する取組みを行っている。 また、関連の資格の取得も促している。			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
法人理事会、評議員会で運営にかかる案件を審議・議決している。月 2 回開催している教授会等で学校運営にかかる事項の審議を行っている。	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	池田 敏宏
--------	------------	-------	-------

## 2-5 人事・給与制度

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	<input type="checkbox"/> 採用基準・採用手続きについて規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか <input type="checkbox"/> 給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 昇任・昇給の基準を規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 人事考課制度を規程等で明確化し、適切に運用しているか	4	<p>人事・給与に関しては、規程を定めそのもとで適切に対応している。</p> <p>採用にあたっては選考に関する定めを設けるなど、必要に応じて人材の確保に努めている。</p> <p>人事考課に関しての規程は置いていない。</p>	人事・給与に関する諸規定のもと適切な運用に努めている。	人事考課については業態に応じた運用に努めていく。	就業規則 給与規程 新採対象選考委員会内規

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
経営指針及び毎年の事業計画で人事計画を立て、人事体制の検討を行っている。諸規定も整備し、適切に運用している。	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	池田 敏宏
--------	------------	-------	-------



## 2-6 意思決定システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	<input type="checkbox"/> 教務・財務等の業務処理において、意思決定システムを整備しているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムにおいて、意思決定の権限等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムは、規則・規程等で明確にしているか	4	各分野における意思決定はシステム化している。 また、諸規定を整備し運用している。	規程等に則り、適切な意思決定に努めている		学 則 組織規定 委員会規程

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
意思決定に関しては、制度面、運用面とも確立している。	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	池田 敏宏
--------	------------	-------	-------

## 2-7 情報システム

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	<input type="checkbox"/> 学生に関する情報管理システム、業務処理に関するシステムを構築しているか <input type="checkbox"/> 情報システムを活用し、タイムリーな情報提供、意思決定が行われているか <input type="checkbox"/> 学生指導において、適切に学生情報管理システムを活用しているか <input type="checkbox"/> データの更新等を適切に行い、最新の情報を蓄積しているか <input type="checkbox"/> システムのメンテナンス及びセキュリティー管理を適切に行っているか	3	学生情報システムを構築・運用しており、一元的な管理と更新・蓄積を行っている。 学生情報システムについては学内独立システムとしており、外部とは遮断している。	セキュリティー管理に配慮しながら業務効率化を図る情報システムの運用に努めている。	平成28年度に掲示板システム（学生連絡用）を構築し運用している。	学生情報システム（掲示板を含む） 教務システム 財務会計システム 就職情報システム

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各種情報システムの適切な管理と効率的運用に努めている。	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	池田 敏宏
--------	------------	-------	-------

## 基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本学院は理学療法士及び作業療法士、言語聴覚士養成施設として国家資格取得を目指す4年制専門学校である。資格取得は責務であるが、教育にあたって特に重視しているのが、対人援助職として必要なコミュニケーションスキルや、医療人の倫理観や精神を育むことである。理学・作業・言語の3学科に共通するものは「人が人に対する仕事に就く」ことである。人と接する以上、そこで最も大事なものは「礼儀」であり、現場での人間関係づくりの上で最も重要視される。学校は「知識や技術」だけでなく「礼儀」の修得の場でもあり、高い専門性のみならず豊かな人間性を有する人材の育成に努めている。指定規則を基にカリキュラム編成を行い、単位認定基準を明確にし、それらは学生便覧や授業科目要綱に明記している。学生の学力低下に対しては、学習支援室や専任教員等が授業で不明瞭な点や疑問に思ったこと、課題が出たがレポートの書き方や文献の調べ方などの学習方法や履修上の問題点について、その解決策や糸口などを見出すための助言・指導を学生に対して行っている。また、年2回、全学科1年～4年を対象に校内一斉模擬試験を行い、その結果を学生指導に役立てている。また、学生個々の適性を生かした就職が出来るよう、施設見学や施設の採用担当者を本学院に招き就職合同説明会等も実施している。就職率は開校以来100%を維持している。</p> <p>学院は教員の教授力、専門性の向上を支援し、教員は常に自己研鑽し、学生に反映させるよう努めている。各学科長が各学科の教員の授業評価結果を基に、年度ごとに指導を実施している。</p>	<p>国家試験については、国家試験対策室を中心に3学科合同で成績分析や学生指導を強化策の共有など密な連携を継続するとともに常に見直しを図り合格率を高めていく。</p> <p>模擬試験の結果を踏まえ成績下位者に対しては個別の学習支援を行い、目標値を達成させる。</p> <p>教育内容については、現場で求められる人材の育成を目指しより実践的な授業や特別講義も実施していく。</p>	<p>本学院の特徴として、学院の立地特性を生かし、地域交流活動を積極的に取り入れている点にある。小学校に、本学院の学生が授業の一環として体力測定を行っている。その他に地元自治体や小学校、地域のイベントには積極的に参加するようにしている。このように地域住民と交流を図ると同時に、学生間での協働作業を通して協調性、自主性を学ぶ機会を設けている。</p> <p>平成28年度から実際の医療現場を模した各種の疑似環境の中で、人や物と関わりながら専門的な知識と技術を学ぶシミュレーション教育も導入している。現在、シミュレーション教育の核となる様々な患者の病状とその対応に関するシナリオデータを作成するための教員研修を年2回実施した。平成30年度継続して実施する予定である。</p> <p>平成28年に生活現場における技能教育をより効果的に行うために、実際の生活現場を模した各種の疑似環境を設定し、知識と技術が学べる機会が必要である。模擬住宅システムと就労活動システムを使用することによって、学生に対して技術トレーニング、チームアプローチなどのシミュレーショントレーニングの機会を提供することを目的として生活行為向上支援システムを整備し授業の中で活用している。さらに、平成29年にはAIロボットや光ポトグラフィー(近赤外光脳機能計測装置)を導入し、新たなリハビリテーションの知識や技術の理解を深めるよう授業や研究に活用していく。</p>

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	濱田 和範
--------	------------	-------	-------

### 3-8 目標の設定

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 職業教育に関する方針を定めているか	4	学院の教育目標及び重点目標、指定規則等に基づいたカリキュラム編成を実施している。	自分で考え行動できる自律した専門職となれるよう教育体制の強化が必要である。	現場が求める実践力のある人材を育成するための具体的な取り組みを実施する。	実務必携 学籍簿 授業科目要綱(シラバス) 時間割
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	<input type="checkbox"/> 学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか <input type="checkbox"/> 教育到達レベルは、理念等に適合しているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか	3	授業科目要綱に目標を載せ、学生に周知させている。成績及び単位の認定の明確化、定期試験受験資格としての出席状況も加味しての進級判定を行い、卒業は、卒業判定会議にて審査し、学院長が認定している。 国家試験合格を目指すという明確な教育到達目標を設定しており、その取得のための学習時間も確保されている。	国家試験対策室の機能を常に見直すとともにさらに強化し、徹底した指導や支援を行っていかなければならない。	学生の理解度や達成度を把握し、苦手分野を克服指導のために、年に2回3学科の1年から4年生の全学生を対象に基礎科目の校内一斉模擬試験を実施し成績上位者については校内で掲示している。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
指定規則に基づいてカリキュラムを編成している。対象者と全人格的な関わりの中で展開される仕事であるから、人間としての成熟も問われる。このような役割を担うためには教養や人間教育にも時間をかけ、より広い視野を持った高い人間性を育むための指導にも取り組んでいる。	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	濱田 和範
--------	------------	-------	-------

## 3-9 教育方法・評価等

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、必修科目・選択科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 修了に係る授業時数、単位数を明示しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、授業内容、授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で、科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか	4	<p>教育課程規程のもと委員会を置き編成作業を行っている。カリキュラムは、社会のニーズに対応し、適宜、評価・改善している。</p> <p>特にカリキュラムは各授業間を体系的かつ効率的に作成するよう努め、基礎的内容を反復学習し、知識を定着させるようにしている。</p> <p>教養科目、専門基礎科目、専門科目の時間数は明示するとともに適切な授業科目の配置に努めている。また、臨床実習、卒業研究を配置し現場で必要な専門知識や思考を育てることを目指している。</p>	<p>基礎学力など学生間の格差を是正しながら学生の自主性を高め自分で考える能動的学習ができるよう取り組んでいる。これまでは「臨床実習で現場に出て体で覚える」事が主流であった。現場に入り、指導者の下「見て、聞いて、体で経験しながら覚える」事で技術・技能を修得してきた。しかし、医療倫理・患者権利意識の高まりなども相まって、資格を有しない学生による臨床実習への協力を敬遠する傾向も強まり、身体接触を必要とする評価・訓練を学生に数多く経験させることが困難となってきた。今後、参加型臨床実習へとよりシフトしていく。臨床医学に関しては、医師を主体に講師の確保に努めているが、昨今の医師不足や派遣する施設側の経営的問題などもあり極めて困難な状況にある。</p>	<p>平成29年度からカリキュラムを改訂している。基礎医学や臨床医学については引き続き専門性の高い講師を確保することに努める。教養科目については選択科目数を減らし医学を理解するための基礎学力の強化を実施する。また、現場で必要な実践的な講義を実施していく。</p> <p>実際の医療現場を模した各種の疑似環境の中で、人や物と関わりながら専門的な知識と技術を学ぶ臨床技能総合学習システム（ミュレーション教育）、模擬住宅システムと就労活動システム、AIロボットや光ポトグラフィー（近赤外光脳機能計測装置）など最先端の教育機器を導入などをよりより多く授業の中に取り入れていく。</p>	<p>教務運営実務委員会規程  授業科目要綱（シラバス）  学生便覧  試験実施要項  年度別国家資格試験合格率の推移</p>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-9-1 続き	<input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか <input type="checkbox"/> 単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか <input type="checkbox"/> 授業科目について授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成しているか <input type="checkbox"/> 教育課程は、定期的に見直し、改定を行っているか					
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	4	<p>毎年全国の臨床実習生受入施設の指導者を招へいし教育全般にわたる情報交換や意見聴取し改善策を討議している。</p> <p>業界団体とは緊密に連携し、教育課程の編成などに関する意見聴取もしている。</p> <p>卒業生とは施設訪問などの際に情報交換などを活発に行っている。</p>	<p>今後も「職業実践専門課程」で定められる教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会、さらには、リハビリテーション教育評価認定審査等の外部関係者等による評価を受け、その結果をもとに検討を行いさらなる教育内容の改善を行う必要がある。</p>	<p>企業や地域関係者と密接に連携し、最新の実務の知識・技術を身につけられる実践的な職業教育に取り組んでいく。</p>	臨床実習指導者協議会 会議資料
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	<input type="checkbox"/> キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか <input type="checkbox"/> キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか	3	<p>礼節を重んじた対人援助職としての自覚を促す教育活動に取り組んでいる。必要に応じて外部講師に授業を依頼し、最新のトピックスや、業界の視点から学生を指導に努めている。</p>	<p>入学早期より具体的職業イメージを持たせ学習意欲を高める機会を設ける必要がある。</p>	<p>早期に現場体験やボランティア活動により高齢者や子供、障害者などと触れ合う機会を増やし職業意識を高めていく。</p>	養成施設指導要領 学生便覧

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-9-3 続き	□キャリア教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか		毎年病院・施設の関係者との意見交換会を行っており、同窓会活動を通じた意見聴取なども行っている。			
3-9-4 授業評価を実施しているか	□授業評価を実施する体制を整備しているか □学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか □授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか □教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか	4	マークシートの導入により集計作業時間の効率化を図るとともに、年1回の授業評価を前後期各1回の計年2回実施することとなった。これらの結果に基づいて学生にとって、より「魅力的な授業」「わかる授業」への改善の取り組みを行っている。	単に「わかりやすい授業」というだけでなく国家試験で求められる知識や技術、さらには、「現場でより求められる実践的な知識や技術」が授業内容に含まれているかの評価も重要となる。	国家試験結果の分野別正答率などの詳細な成績分析し、その結果を学生指導に確実に生かしていく必要である。	授業評価用紙 授業評価報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育課程の編成などに際しては組織的に対応しており、引き続き施設関係者や関係団体等の連携にも努めてきている。	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	濱田 和範
--------	------------	-------	-------

## 3-10 成績評価・単位認定等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか <input type="checkbox"/> 成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか	4	学生便覧および授業科目要綱等に成績評価基準および単位互換の基準を記載し明確にしている。単位互換については新入生が入学時に提出した成績証明書をもとに基礎分野の科目を教授会で決定している。	試験の難易度についても一定の教育水準は維持しつつ、教員・科目により著しい格差がでないようにチェックしていく必要がある。	今後も、明確な成績評価を実施して行く。	成績表 卒業判定会議
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	<input type="checkbox"/> 在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	4	卒業研究発表会を開催、卒業論文集を発行している。			卒業論文集

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価・単位認定の基準は明確にしている。各教科の試験の難易度については教員間での共通認識づくりなどを引き続き行っていくことにしている。	入学時に学生便覧、毎年度始めには授業科目要綱（シラバス）を全学生に配布し、その中で、成績評価、単位認定基準を明文化し、かつ説明も行っている。

最終更新日付

2018年3月31日

記載責任者

濱田 和範



## 3-11 資格・免許の取得の指導体制

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	<input type="checkbox"/> 取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか	4	国家試験受験資格要件を満たしたカリキュラムを指定規則に基づき明確に位置づけている。 国家試験対策や職業人としての基礎力の強化を目的に特別講義も実施している			国家試験対策室規程
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	<input type="checkbox"/> 資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか	4	各学科国家試験対策委員会を中心に教員による模擬試験、国家試験対策、個別指導を行っている。 国家試験不合格者に対しては無料で学校設備の利用や指導を行っている。	引き続き国家試験の指導の充実について常に見直し改善していく必要がある。		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
総体的には国家試験合格率は徐々に向上してきている。	平成 27 年度より 3 学科合同の国家試験対策室を設置したが、これは各学科での国家試験対策のノウハウについて情報共有するとともに、より有効な国家試験対策を企画実施するものである。マークシート読み取り装置により迅速に試験採点結果を行い、学生に明確な目標設定や指導することを可能とした。特に試験実施後には迅速に本学オリジナルの成績表を作成し、成績分析に基づき学生各人に応じた課題や学習法を助言・指導を行う学生一人一人にきめ細かいサポートを実施している。

最終更新日付	2018 年 3 月 31 日	記載責任者	濱田 和範
--------	-----------------	-------	-------

## 3-12 教員・教員組織

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	<input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか <input type="checkbox"/> 教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか <input type="checkbox"/> 教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか <input type="checkbox"/> 教員の採用計画・配置計画を定めているか <input type="checkbox"/> 専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比等など教員構成を明示しているか <input type="checkbox"/> 教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか	4	<p>厚生労働省指定の専任教員資格要件を備えた教員を必要数確保している。これまで理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設等教員長期講習会への参加を積極的に行ってきた。今後も未受講の教員を参加させる予定である。教員の配置等については人事計画のもとでの対応に努めている。また、人事に関する定めは就業規則等に基づいている。教員一人当たりの時間数も把握している。</p>	<p>教員個人において、専門性を追求するべく研修等への参加を行っている。しかし、所属する職能団体や学会の定める専門資格や認定資格、また修士号・博士号などの取得にはばらつきがあり、取得に向けて教員へ啓発していく。</p>	<p>教員個人において、専門領域の研修会への参加を継続しつつ、所属する職能団体や学会の定める専門資格や認定資格、あるいは修士号及び博士号の取得などを目指す。</p>	<p>教員履歴書            教職員名簿            規程集            各研修会参加資料            認定資格証            研究実績            出張報告書            研究紀要            出張伺い</p>

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	<input type="checkbox"/> 教員の専門性、教授力を把握・評価しているか <input type="checkbox"/> 教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による教員の研修・研究に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか	4	授業評価結果を参考にしながら、年度ごとに教授会等の評価を実施している。 PT・OT・ST養成施設等教員長期講習会への参加を計画的に行っている。学会や研修会参加の助成、教育研究費の支給を行っている。			授業評価報告書
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 分野毎に必要な教員組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか <input type="checkbox"/> 専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか	3	教務、臨床、評価など分野ごとに規程に基づく組織（委員会）を置き分担と責任を明確にした対応を図っている。実習には複数教員が関与し、またオムニバス形式の導入も含め、専任教員間で協業している。	学生の学習面などに関する情報の共有化、問題点の抽出、解決策の検討などが不十分である。また、兼任教員と授業について協議する機会は少なく協業は不十分である。	さらなる情報の共有化を行い、学力面に問題のある学生への指導方法を複数教員で探る。 兼任教員と専任講師で授業内容について協議する機会を多く持つ。	業務必携（職務分掌含む）

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教員の資質向上等を図っていくなど積極的に研修等に参加し、能力を高めるよう努めている。兼任教員は専門性の高い人物を選んでいるが「国家試験出題基準」と「国家試験過去問題」を提示し、教授内容について依頼している。	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	濱田 和範
--------	------------	-------	-------

## 基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本学院の重点目標は「先進・進取の教育の推進」「目的意識をもつ学生の確保」「有為な人材の育成」「先駆的な教育・研究環境の整備」「地域とともに歩む学院づくり」であり、その目標を達成すべく教育の向上を図っている。資格取得率は有能な人材育成と同様に重要であり、その情報を国家試験対策へ活かすことが重要である。</p> <p>国家試験全員合格を目指し、学習教材、校内・全国模擬試験などを含め様々な対策を講じている。平成 29 年度の現役生の国家試験合格率は、PT89.1%（全国平均 87.7%）、OT78.1%（全国平均 87.7%）、ST82.8%（全国平均 91.0%）であり、新たな国家試験対策の効果がでてきている対策は小グループによるシェア学習を中心に様々な取り組みを行っているが、特に成績下位者に対しては個別指導など集中的な介入も行っている。少なくともなってきたが、依然として国家試験対策に遅刻・欠席などコンプライアンスの低い学生もみられ、教員が随時介入し、学生が積極的に学習に取り組むよう指導している。また、1 年次より基礎学力の向上や予習・復習などの学習習慣の体得なども重要である。</p> <p>就職指導としては履歴書の書き方、職場見学のアポイント、就職面接の練習、学生への個別相談などを行い、就職結果については教授会や学科会議にて随時報告している。卒業生や在校生の社会的活躍・評価について、把握に努め、評価・広報できるように配慮している。</p>	<p>効率よく学力を伸ばすための「正しい学習法」とは、「正しい理解」⇒「定着」⇒「思考訓練」の順に進んでいくことであり、勉強は量（時間）よりも質（勉強法）である。「正しい理解」のためには、まず、自分の言葉で説明できること。本当に理解できていれば、教科の内容や問題の解法を自分の言葉で説明できる。講義を聞いて「これは分かった」と自分で感じて「聞いてわかる」と「自分でできる」とは別の話である。「なぜ、そう考えたのか」それを他者に説明できて「本当に理解した」と言える。これは同級生に実際に説明してみるのがベストである。「定着」には、ひたすら復習を繰り返す。理解した内容を記憶し、自在に使いこなせるようにする。そのためには、何度も繰り返し復習することである。「思考訓練」は、いわゆる「考えさせる問題」に強くなることである。考察問題の大半は「基本的解法の組み合わせ」でできている。考察力が弱いと考えている学生の多くは基礎知識が不足していると思われる。</p> <p>国家試験対策の基本は「過去問」に始まり「過去問に終わる」と言われている。どこが学生の目指すゴールなのか、今後どのような対策が必要なのかを知るために過去問演習することは有効である。受験日が近づいて過去問を始めても、これではまったく遅い。まずは、学生自身で国家試験が何を求めているのかを感覚的につかむことから始める。過去問題や模擬試験を繰り返し、その都度、現状の課題点や解答順序、時間配分などを自己分析することが重要である。</p>	<p>卒業生の社会的活躍状況については、学会誌や専門誌などに掲載された論文を学院図書館で紹介している。在学生のサークル活動やボランティア活動はホームページや学院報に掲載し、紹介している。</p>

## 4-13 就職率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 就職率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 学生の就職活動を把握しているか <input type="checkbox"/> 専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか <input type="checkbox"/> 就職率等のデータについて適切に管理しているか	4	<p>希望者を全員就職させることが出来るよう取り組んでいる。</p> <p>就職相談室を設け就職に関する情報提供や就職指導を行っている。求人情報は、PCで管理し病院等の規模や特徴について紹介し学生の希望に沿って就職できるよう支援している。4年前期より就職希望調査を行い、意識づけを早い段階から行っている。毎年県内外から施設の関係者を招き就職相談会を開催している。就職先は一覧表にして、卒業年次毎に管理している。</p>	就職戦線も益々激化が予想されることから、教職員一丸となって新たなる求人先の開拓や就職指導の強化などに取組んでいくことが必要である。	<p>今後は、教職員による病院施設訪問による求人依頼をはじめ、学生への個人面談やホームルーム、セミナー等での学生への啓発・指導等を行う。</p>	就職成果

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生に対しては個別相談や就職指導を行うとともに、就職状況については教職員全体で情報共有している。また、就職試験に関するデータの収集をおこない、今後の就職試験対策の資料としている。現在も求人件数は就職希望者の数十倍といった状況にはあるが、県内の求人数の減少しているため求人数得の多い県外への就職を学生に啓発し推進していく。</p>	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	濱田 和範
--------	------------	-------	-------

## 4-14 資格・免許の取得率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 資格・免許取得率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 特別講座、セミナーの開講等、授業を補完する学習支援の取組はあるか <input type="checkbox"/> 合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか <input type="checkbox"/> 指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか	3	国家試験全員合格を目標とし、校内・全国模擬試験、教材や具体的学習方法の指導などを含め様々な対策を講じている。特にグループ学習を中心に進めているが、成績下位者については心理的なサポートも含め個別指導など随時介入している。	常に、全員合格を目指した取り組みを行っているが、最低でも全国平均値を上回る数値は超えなければならないが、年度により上回ったり下回ったしており、安定していない時もあり、さらなる改善が必要である。	1年次から基礎学力の修得も含め、到達レベルを基にした個別指導を徹底するなどの方策を展開していく。	年度別国家試験合格率

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
国家試験対策室を中心に、国家試験全員合格を目標に取り組んでいる。1年次から各授業の中で国家試験関連の講義を授業の中でも取り入れている。また、学科・学年ごとに小テストや模擬試験や実力試験等を実施し、それらの結果を教員間で共有して個別対応も行っている。	今後の課題として年々増加傾向にある低学力者への対策が挙げられる。万が一不合格の場合でも、国家試験に合格するまで支援プログラムを用意し徹底したケアを実施している。

最終更新日付

2018年3月31日

記載責任者

濱田 和範

## 4-15 卒業生の社会的評価

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	<input type="checkbox"/> 卒業生の就職先の企業、施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか <input type="checkbox"/> 卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	4	就職先については機会あるごとに訪問し、卒業生の状況の把握に努めている。同窓会活動も行われている。また、内外の学術大会での発表、学会誌や専門誌などに投稿・掲載された論文の把握に努めている。	就職後の企業側の卒業生に対する詳細な評価の調査ができていない。	今後、企業側の卒業生に対する評価に関するアンケート調査を実施したい。	

中項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
数多くの卒業生が関連領域で教員を務めるなど社会的な活躍をしている。卒業後も出身学科の教員や就職相談室の職員などが中心に相談を受け助言や支援をしている。今後も卒業生の対外的な評価を把握し、社会貢献できる人材の育成に役立てていきたい。	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	濱田 和範
--------	------------	-------	-------

## 基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職率は本年度も希望者に関しては100%に達している。就職情報管理室を設置するとともに専任の職員を配置し、個別面談や就職説明会の開催など、きめ細かい支援体制の成果が出ている。</p> <p>学生の日々の心身面の支援に関しても、保健室やカウンセラーを配置し対応している。学習相談に関しては学習支援室を新たに設置し、相談に乗っている。保護者との連携も積極的に行っており、機会あるごとに連絡を取り合うとともに保護者面談会を実施し、学校と家庭が一緒になって教育を行う体制を作っている。</p> <p>クラブ活動については、現在13のクラブ・サークルが活発に活動している。学校としても活動費の支援を行うなどの積極的に推進が功を奏した結果となっている。同窓会活動も活発になっているが、卒業生が2,898名と増加しており、県外の卒業生の参加を促進するべく体制づくりを継続している。</p> <p>奨学金制度の活用や土佐市の協力を得て、就学支援金の交付と言った独自の制度も活用されている。</p>	<p>同窓会に関しては、全国をブロック化し連絡体制の整備に入った、また名簿管理の効率化を図るべく、システムの導入を行い順調に稼働している。</p>	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	清岡 学
--------	------------	-------	------



## 5-16 就職等進路

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 就職など進路支援のための組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生の就職活動の状況を学内で共有しているか <input type="checkbox"/> 関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 就職説明会等を開催しているか <input type="checkbox"/> 履歴書の書き方、面接の受け方など、具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか <input type="checkbox"/> 就職に関する個別の相談に適切に応じているか	4	<p>就職情報管理室と就職支援委員会が一丸となって支援したことにより、本年度も希望者は100%の就職率となった。</p> <p>外部講師を招き、社会人としてのマナー、履歴書の書き方や面接マナーの指導も着実に実施できている。面接練習や施設見学を積極的に支援も継続している。</p> <p>また県内外の施設の就職責任者を招いての就職説明会を開催した。</p>	継続的に就職支援に努めていく。		就職指導委員会規程 就職説明会

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
組織的な対応がなされており、細やかな指導等に努め成果が上がっている。	

最終更新日付

2018年3月31日

記載責任者

清岡 学

## 5-17 中途退学への対応

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか	<input type="checkbox"/> 中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか <input type="checkbox"/> 指導経過記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか <input type="checkbox"/> 退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか	4	<p>中途退学者の状況は適切に把握し、出席・成績が、不良の場合は保護者同席で面談を実施するなど連携した対応ができています。</p> <p>カウンセラーを配置し定期的な対応を図るとともに学習支援室を置き勉学面でのサポートを行っている。</p>	今後とも退学者の低減に努めていく必要がある。		教授会資料

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生の様子は常に把握すべく注意をはらっている。退学希望者に対しては幾度となく個別に面談を行うとともに、保護者との連絡を取り合いながら対応している。精神的原因についてはカウンセラーへ依頼をし、教員も一緒に対応する体制をとっている。</p>	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	清岡 学
--------	------------	-------	------

## 5-18 学生相談

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか <input type="checkbox"/> 学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか <input type="checkbox"/> 相談記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 関連医療機関等との連携はあるか	4	<p>専任のカウンセラーを配置し、定期的に相談可能なスケジュールを策定している。</p> <p>また、学習支援室を設置し、学習の悩みに対し支援するとともに、記録は保存し、必要に応じて医療機関と連携した対応に努めている。</p>	今後とも学生相談の充実化を図っていく必要がある。		
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 留学生に関する指導記録を適切に保存しているか		留学生は現在いない。	国際化が進んでいる状況を鑑み、受け入れ態勢の必要性の検討の必要性はあると考えている。		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
心身面の相談には保健室とカウンセラーが対応できるようにしている。学習面に関しては、学習支援室も含め、支援する体制が構築でき継続している。中長期的には、留学生の受け入れも検討していくことが望まれる。	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	清岡 学
--------	------------	-------	------

## 5-19 学生生活

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校独自の奨学金制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 学費の減免、分割納付制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 大規模災害発生時及び家計急変時等に対応する支援制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 全ての経済的支援制度の利用について学生・保護者に十分情報提供しているか <input type="checkbox"/> 公的支援制度も含めた経済的支援制度に関する相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 全ての経済的支援制度の利用について実績を把握しているか	3	<p>就学支援金制度を設けている。学費については家計状況等、特別の事情がある場合は相談に応じる体制は構築できた。</p> <p>機会あるごとに公的支援制度について説明会を開くなど周知に努めるとともに、利用学生は増加している。</p>		今後も継続していく。	就学支援金制度 土佐市条例
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校保健計画を定めているか <input type="checkbox"/> 学校医を選任しているか <input type="checkbox"/> 保健室を整備し専門職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 定期健康診断を実施して記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 有所見者の再健診について適切に対応しているか	4	<p>保健計画のもと、校医と保健室を設置。保健職員を常駐させている。</p> <p>年1回の健康診断を実施し、異常があった場合は再検査及び近隣医療機関への受診をさせている。</p>			組織図

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-19-2 続き	<input type="checkbox"/> 健康に関する啓発及び教育を行っているか <input type="checkbox"/> 心身の健康相談に対応する専門職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 近隣の医療機関との連携はあるか					
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 遠隔地から就学する学生のために寮を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生寮の管理体制、委託業務、生活指導体制等は明確になっているか <input type="checkbox"/> 学生寮の数、利用人員、充足状況は、明確になっているか		学生寮はない。			
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> クラブ活動等の団体の活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 大会への引率、補助金の交付等具体的な支援を行っているか <input type="checkbox"/> 大会成績など実績を把握しているか	4	現在 13 のクラブ・サークル活動があり、学校職員が顧問となり大会等への引率をしている。 活動費も年間予算を組んでいる。実績についても把握している。			クラブ・サークル活動計画書及び予算書 活動報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
奨学制度や健康管理など生活面での対応、課外活動への支援などにも努めている	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	清岡 学
--------	------------	-------	------

## 5-20 保護者との連携

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	<input type="checkbox"/> 保護者会の開催等、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 個人面談等の機会を保護者に提供し、面談記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 学力不足、心理面等の問題解決にあたって、保護者と適切に連携しているか <input type="checkbox"/> 緊急時の連絡体制を確保しているか	4	<p>保護者面談会を開催は定着した。教育活動全般の報告から個人面談までを行い、連携を密になってきている。</p> <p>緊急時の連絡体制も確保している。</p>	休日に開催しているが仕事の都合等で全保護者の参加は不可能であるが、5割程度の参加は得られている。		保護者面談会報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
保護者との連携重視の方針は変わっていない。学校生活での変化や出席状況、成績状況、悩みについては保護者と密に連絡を取り、一緒になって学生を支援している。	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	清岡 学
--------	------------	-------	------

## 5-21 卒業生・社会人

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 同窓会を組織し、活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 再就職、キャリアアップ等について卒後の相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 卒業後のキャリアアップのための講座等を開講しているか <input type="checkbox"/> 卒業後の研究活動に対する支援を行っているか	4	<p>同窓会は組織化されている。就職などにも積極的に相談にのっており、マッチングの実績も多い。</p> <p>また、卒業生のキャリアアップなどを図る共同研究も行っている。</p>	<p>全国に卒業生がいるため、ブロック化の体制整備に入っており、現在ブロック代表者の選出は終わっている。</p>		同窓会総会資料
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 関連業界・職能団体等と再教育プログラムについて共同開発等を行っているか <input type="checkbox"/> 学会・研究会活動において、関連業界等と連携・協力を行っているか	3	<p>職能団体との共同研究などに努めている。</p> <p>また、病院・施設との共同研究も行っている。</p>	<p>今後とも職能団体などと連携した取り組みを行っていく必要がある。</p>		士会研修会等
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	<input type="checkbox"/> 社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則等に定め、適切に認定しているか <input type="checkbox"/> 社会人学生に配慮し、長期履修制度等を導入しているか <input type="checkbox"/> 図書室、実習室等の利用において、社会人学生に対し配慮しているか <input type="checkbox"/> 社会人学生等に対し、就職等進路相談において個別相談を実施しているか	4	<p>入学前履修科目に互換性があれば単位認定している。</p> <p>社会人学生、卒業生、地域住民等に対して図書館等の施設利用面や就職等における個別相談といった面で何ら異なることはない。</p>	<p>長期履修制度は設けていない。</p> <p>単位制であり4年間での卒業に向けた対応を基本にしている。</p>		学則 図書館利用規約



中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
同窓会の活動は年々活発化している。学校自体を卒業生に開放しており、卒業生と在学生の交流も活発化を見せ始めた。	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	清岡 学
--------	------------	-------	------

## 基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>指定規則に基づく教育設備・備品の適正な配置はもとより医科学の進展に促した先端教育機材の導入を図り、医療現場や生活介護支援実態に応じた教育環境の整備に努めている。</p> <p>平成 30 年には開学 50 年を迎えることから教育環境整備 3 カ年計画を策定し時代の趨勢を踏まえた最先端の設備の導入を進めるとともに教育内容の一層の充実・強化を図っている。</p> <p>平成 26 年には図書館を中心とした別館を整備、課題であった合同教室も備えたため教育環境が更に向上した。ハード面では校舎に近接した運動場が望まれるところである。</p> <p>通学環境と学生のアクセスの向上を図っていくため、これまでも新たな駐車場を設けるとともに最寄 J R 駅との間の通学バスに大型を導入するなどの取り組みを進めている。昨年度に J R 伊野駅と当学院を結ぶ通学の路線バスが土佐市の支援により再開され、利便性が向上した。</p>	<p>地元自治体により運動場用地の確保に向けた対応が始まることになり、大きな前進が見られている。</p>	<p>学校用地については、地元自治体の支援によって確保されているため、今後とも連携を密にした取り組みを行っていくことが重要である。</p>

最終更新日付

2018年3月31日

記載責任者

池田 敏宏

## 6-22 施設・設備等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	<input type="checkbox"/> 施設・設備・機器類等は設置基準、関係法令に適合し、かつ、充実しているか <input type="checkbox"/> 図書室、実習室など、学生の学習支援のための施設を整備しているか <input type="checkbox"/> 図書室の図書は専門分野に応じ充実しているか <input type="checkbox"/> 学生の休憩・食事のためのスペースを確保しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備のバリアフリー化に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 手洗い設備など学校施設内の衛生管理を徹底しているか <input type="checkbox"/> 卒業生に施設・設備を提供しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等について適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備等の改築・改修・更新計画を定め、適切に執行しているか	4	<p>施設・設備については適切に整備また、配置している。</p> <p>図書館は蔵書等、充実しており、実習室も完備している。学生用の大食堂も整備しており、衛生施設の点検・管理も徹底している。</p> <p>また、卒業生の来校も多く見られている。</p>	<p>現校舎は平成 10 年に整備したものであるが、防水、空調などの計画的改修、更新にも努めている。</p>		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本学院は平成 10 年に建築されたものであるが、これまでも校舎の計画的改修、設備の更新を行ってきている。平成 26 年には図書館を中心にした別館が整備されるなど施設・設備の充実化に努めている。</p>	

最終更新日付	2018 年 3 月 31 日	記載責任者	池田 敏宏
--------	-----------------	-------	-------

## 66-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学外実習等について、意義や教育課程上の位置づけを明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか <input type="checkbox"/> 学外実習について、成績評価基準を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか <input type="checkbox"/> 学外実習等の教育効果について確認しているか <input type="checkbox"/> 学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか <input type="checkbox"/> 卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先等に行事の案内をしているか	4	<p>国家試験受験資格として学外での臨床実習が義務づけられているため、各学科各学年で学外実習を行っている。これにあたっては規程を設け3学科の教員で委員会を設け検討している。臨床実習中には、教員による施設への巡回指導を行い、実習中の学生の状況を把握し、朝のミーティングや科内会議での報告、臨床実習巡回指導記録等にて教員は情報を把握している。実習終了後には、実習評価表、実習経験レポート、症例レポートや症例報告会、実習報告会、実習判定試験などを通じて、実習の成果を確認している。また、全国各地の実習受入施設の指導者等との臨床実習指導者連絡協議会議を年1回開催し連携した臨床教育の体制を整えている。</p>	<p>今後とも関係業界等との連携に努めていく必要がある。また、グローバル社会に対応できる教育システムについても検討する必要がある。</p>		<p>臨床実習指導者会議議事録  臨床実習巡回報告書  臨床実習評価表  症例研究抄録集  学科会議議事録  実習の手引き</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>実習施設とは常に連携した教育を行っており、学生の状況・実績の把握も行われている。卒業生が実習指導者となって、実習生の指導に当たるというケースが増え、学校の考え方を理解しながら実習指導をしてくれる施設が増えている。</p> <p>臨床実習指導者連絡協議会では、実習指導者を対象とした研修講座を開催している。これは、臨床実習指導をより充実させるために、実習施設指導者の教育指導力向上と、実習施設と学校との共通理解を深めることを目的としている。</p>	<p>療法士にとって、臨床実習は非常に重要なカリキュラムとして位置付けられている。しかも、人の人生や生命に関わる業務に携わるだけに、その業務に取り組む心構えの如何が厳しく問われる臨床実習に臨むにあたり、生涯をかけた仕事に出ようとしている前に、実習にどういう意志で臨むか、実習は何故するかではなく、生涯の仕事にどう取り組むか、自らの心をみつめ、その意志を固めさせる。医療人となる基礎を自らの意志で確立する儀式として臨床実習宣誓式を3学科の3年生を対象に実施している。</p>

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	濱田 和範
--------	------------	-------	-------

## 6-24 防災・安全管理

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的な行動のマニュアルを整備しているか <input type="checkbox"/> 施設・建物・設備の耐震化に対応しているか <input type="checkbox"/> 消防設備等の整備及び保守点検を法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 防災（消防）訓練を定期的実施し、記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 備品の転倒防止など安全管理を徹底しているか <input type="checkbox"/> 教職員・学生に防災研修・教育を行っているか	4	<p>防災・防犯マニュアルを策定し、地震はもとより、火災・風水害などに的確な対応が図れるよう備えている。</p> <p>このマニュアルについては学生用としてポケットサイズのものも策定し、全員に配布している。</p> <p>消防設備については法定点検等適切な対応を行っている。</p> <p>気象庁の専門家や消防当局の協力を経て研修や防火・避難訓練を毎年行っている。</p>	備品の転倒防止対応を更に徹底していく必要がある。	逐次対応に努めていることにしている。	防災・防火マニュアル（教職員・学生用） 災害対策講演会
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 学校安全計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 学生の生命と学校財産を加害者から守るための防犯体制を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを作成し、適切に運用しているか	4	<p>防災・防犯マニュアル（教職員用）において安全管理、事故への備えを定め運用している。</p>			防災・防火マニュアル（教職員用）

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-24-2 続き	<input type="checkbox"/> 薬品等の危険物の管理において、定期的にチェックを行うなど適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 担当教員の明確化など学外実習等の安全管理体制を整備しているか		機器等は施錠管理している。 実習に際しては、事前に説明を行うとともに担当教員による巡回指導に努めている。			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
防災・安全対策については緊急時の教職員、学生双方のマニュアルを整備しており、気象庁や消防当局との連携を図りながら研修・訓練も行っている。	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	池田 敏宏
--------	------------	-------	-------



## 基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生募集は最重要項目である、学校訪問、オープンキャンパス、出前授業など趣向をこらしながら様々な対応に努めるとともに進路相談会の開催や高校にての説明会と言った取り組みを行っている。</p> <p>特にオープンキャンパスは少人数のキャンパスツアーを取り入れ、きめ細かな配慮に努めている。</p> <p>さらにラインを活用し、タイムリーに学校の状況が発信できるようにシステムを構築している。</p> <p>これによって学校のアピールを積極的に行っていく。</p> <p>加えて、学校訪問には専属の職員だけでなく、教員も直接県内外の高校を訪れ進路現場の教員との情報交換などに努めている。</p> <p>さらに、高校の進路担当の教員を学校に招き、学校の設備を見学してもらい、学校理解に努めてもらうとともに、各高等学校の卒業生との意見交換の場を設定し、好評を得ている。</p>	<p>高校の進路現場との情報交換などにおいて専門的なやりとりも多いことから、今後とも各学科教員による訪問活動を更に活発化させていく。</p>	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	清岡 学
--------	------------	-------	------

## 7-25 学生募集活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供を行っているか <input type="checkbox"/> 高等学校等の教職員に対する入学説明会を実施しているか <input type="checkbox"/> 教員又は保護者向けの「学校案内」等を作成しているか	4	<p>高校が主催する進学説明会はもとより、県内3か所で高校教員説明会を独自に実施し。</p> <p>また、高校訪問は専属職員と教員が出向き、高校教員、保護者向けとして作成している学校案内を配布・説明を行うとともに、高</p>			募集活動計画 高校訪問報告書 高校教員説明会報告書 学校パンフレット ホームページ
7-25-2 学生募集を適切、かつ、効果的に行っているか	<input type="checkbox"/> 入学時期に照らし、適切な時期に願書の受付を開始しているか <input type="checkbox"/> 専修学校団体が行う自主規制に即した募集活動を行っているか <input type="checkbox"/> 志願者等からの入学相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 学校案内等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に、分かりやすく紹介しているか <input type="checkbox"/> 広報活動・学生募集活動において、情報管理等のチェック体制を整備しているか	4	<p>願書は適切な時期に受付を始めている。</p> <p>学校案内などにおいては最先端の教育機器などを用いた授業をはじめ特色ある内容の紹介に努めている。</p> <p>志願者などの情報は厳正に管理している。</p>			募集活動計画書 入試要項

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-2 続き	<input type="checkbox"/> 体験入学、オープンキャンパスなどの実施において、多くの参加機会の提供や実施内容の工夫など行っているか <input type="checkbox"/> 志望者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取入れているか		<p>オープンキャンパスでは各学科が専門性に応じた体験授業や卒業生の話を取り入れるとともに、キャンパスツアーでより詳しく説明している。</p> <p>社会人志願者への対応なども含め多様な選考方法を取り入れてい</p>			<p>オープンキャンパス実施計画書 入試要項</p>

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>少子化の進行に伴い募集活動の重要性は更に増しており、高校訪問やオープンキャンパス、広報活動には特に力を入れている。とりわけ、志願者が必ず訪れているオープンキャンパスについては体験授業や公開講座といった取り組みに加え、キャンパスツアーや保護者向けのガイダンスも行うなど特色を出した対応に努めている。さらには高校の教員を学校に招き学校理解を促している。</p>	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	清岡 学
--------	------------	-------	------

## 7-26 入学選考

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-26-1 入学選考 基準を明確化し、 適切に運用して いるか	<input type="checkbox"/> 入学選考基準、方法は、 規程等で明確に定めてい るか <input type="checkbox"/> 入学選考等は、規程等 に基づき適切に運用して いるか <input type="checkbox"/> 入学選考の公平性を確 保するための合否判定体 制を整備しているか	4	<p>要項を定め適正かつ 公正に入学選考を行っ ている。</p> <p>合格判定は評価尺度 が多様化し、多面的と なるが相互に不合理な 判定が生じないように 配慮している。</p>			教授会議事録
7-26-2 入学選考 に関する実績を 把握し、授業改善 等に活用してい るか	<input type="checkbox"/> 学科毎の合格率・辞退 率などの現況を示すデー タを蓄積し、適切に管理し ているか <input type="checkbox"/> 学科毎の入学者の傾向 について把握し、授業方法 の検討など適切に対応し ているか <input type="checkbox"/> 学科別応募者数・入学者 数の予測数値を算出して いるか <input type="checkbox"/> 財務等の計画数値と応 募者数の予測値等との整 合性を図っているか	4	<p>入学選考に関するデー タは蓄積・管理して いる。</p> <p>入学者の傾向につい ては学科ごと、学生ご とに向き合ってきてい るが、学習支援委員会 を設け、個々の学生の 求めに応じて支援する 体制をとっている。</p> <p>応募者数等の予測と 財務の整合は事業計画 の中で担保している。</p>	<p>志望者数に学科格差 がありこれを改善すべ く認知度の低い学科に ついて高校教員や学生 対して詳細な説明を行 い啓発する必要がある。</p> <p>年々、入学生の学力 低下傾向が認められ留 年や退学、国家試験不 合格に結び付く負の連 鎖も認められる。</p>	<p>学力向上の取り組みと して入学前教育の導入 得を早急に図る必要が ある。</p>	事業計画

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>入学選考については、学力試験・小論文・調査書・面接などのそれぞれの結果を数値化し、各学科内で検討され運営委員会、教授会に諮り、様々な角度から慎重に、公正に決定している。また、平成 29 年度より A0 入試を導入している。学力だけを捉えるのではなく、協調性や意欲など人間性なども含め総合的に評価している。</p> <p>財務面との整合も事業計画で図られている。</p>	

最終更新日付	2018 年 3 月 31 日	記載責任者	濱田 和範
--------	-----------------	-------	-------

## 7-27 学納金

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	<input type="checkbox"/> 学納金の算定内容、決定の過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学納金の水準を把握しているか <input type="checkbox"/> 学納金等徴収する金額はすべて明示しているか	4	学納金は教育内容等から妥当なものと認識している。 納入金額はホームページで公開している。			
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	<input type="checkbox"/> 文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱いに対して、募集要項等に明示し、適切に取扱っているか	4	辞退者への対応については、募集要項等に明記している。			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
四国の他校と比較しても大差はない受け止めているが、社会情勢等には配慮していく必要がある。	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	池田 敏宏
--------	------------	-------	-------

## 基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>平成 10 年には現在地に移転、新校舎を整備したが、安定した学生の確保を図るなど健全な財務体質を維持している。</p>		<p>校舎新築資金として、4 千万円／年（30 年払い）を償還しているが、地元自治体による利子補給もあり、資金面での懸念はない。</p>

最終更新日付	2018 年 3 月 31 日	記載責任者	池田 敏宏
--------	-----------------	-------	-------

## 8-28 財務基盤

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	<input type="checkbox"/> 応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握しているか <input type="checkbox"/> 収入と支出はバランスがとれているか <input type="checkbox"/> 貸借対照表の翌年度繰越収入超過額がマイナスになっている場合、それを解消する計画を立てているか <input type="checkbox"/> 消費収支計算書の当年度消費収支超過額がマイナスとなっている場合、その原因を正確に把握しているか <input type="checkbox"/> 設備投資が過大になっていないか <input type="checkbox"/> 負債は返還可能の範囲で妥当な数値となっているか	4	<p>入学者数等は一定水準以上で推移しており、資金及び消費収支とも健全である。</p> <p>ただ、平成 29 年度入学者は、2 学科で定員を下回ったため、入学者の確保に向けた取り組みを強化していくことにしている。</p>			財務諸表
8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	<input type="checkbox"/> 最近 3 年間の収支状況（消費収支・資金収支）による財務分析を行っているか <input type="checkbox"/> 最近 3 年間の財産目録・貸借対照表の数値による財務分析を行っているか	4	財務分析は毎年行っており、その指標は安定している。			同上



小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-28-2 続き	<input type="checkbox"/> 最近3年間の設置基準等に定める負債関係の割合推移データによる償還計画を策定しているか <input type="checkbox"/> キャッシュフローの状況を示すデータはあるか <input type="checkbox"/> 教育研究費比率、人件費比率の数值は適切な数值になっているか <input type="checkbox"/> コスト管理を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 収支の状況について自己評価しているか <input type="checkbox"/> 改善が必要な場合において、今後の財務改善計画を策定しているか					

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>校舎建築費の償還を行っているが、健全な財務内容である。</p> <p>平成30年度の入学者は全学科で定員を下回った厳しい状況であるが、大学化による再編により打開していけるよう取組んでいくことにしている。</p>	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	池田 敏宏
--------	------------	-------	-------

## 8-29 予算・収支計画

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	<input type="checkbox"/> 予算編成に際して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図っているか <input type="checkbox"/> 予算の編成過程及び決定過程は明確になっているか	4	3カ年の経営指針のもと、毎年事業計画を策定し、そのもとでの予算の編成作業を行っている。			事業計画 予算書
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	<input type="checkbox"/> 予算の執行計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 予算と決算に大きな乖離を生じていないか <input type="checkbox"/> 予算超過が見込まれる場合、適切に補正措置を行っているか <input type="checkbox"/> 予算規程、経理規程を整備しているか <input type="checkbox"/> 予算執行にあたってチェック体制を整備するなど適切な会計処理を行っているか	4	<p>予算については執行計画を策定し適切な運用に努めている。</p> <p>また、執行にあたっては会計規則のもとシステム化を図っており、効率的な管理に努めている。</p> <p>予算の執行面では、本学院及び学校法人本部でのチェックも行っており、2重の管理体制を敷いている。</p>			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
予算執行管理にあたってはその会計システム化するなど、適切な運用に努めている。	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	池田 敏宏
--------	------------	-------	-------

## 8-30 監査

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	<input type="checkbox"/> 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査報告書を作成し理事会等で報告しているか <input type="checkbox"/> 監事の監査に加えて、監査法人による外部監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査時における改善意見について記録し、適切に対応しているか	4	公認会計士による外部監査（年2回）をはじめ適切な監査を実施している。			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
内部監査も毎年行われており、適切に対処している	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	池田 敏宏
--------	------------	-------	-------

## 8-31 財務情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 財務公開規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書を作成しているか <input type="checkbox"/> 財務公開の実績を記録しているか <input type="checkbox"/> 公開方法についてホームページに掲載するなど積極的な公開に取り組んでいるか	4	財務諸表をホームページで公開するなど積極的な情報開示に努めている。 事業報告書も毎年作成している。			財務諸表 事業報告

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務諸表等について公開するなど適切な運用に努めている。	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	池田 敏宏
--------	------------	-------	-------

## 基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>関連する法令を遵守した運営に努めている。 個人情報の保護に関しては、規程を設け、委員会による対応を図っている。 また、自己点検・評価についても同様の対応を図っている。</p>		

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	池田 敏宏
--------	------------	-------	-------

## 9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	<input type="checkbox"/> 関係法令及び設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届等適切に行っているか <input type="checkbox"/> 学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> セクシュアルハラスメント等の防止のための方針を明確化し、対応マニュアルを策定して適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 教職員、学生に対し、コンプライアンスに関する相談窓口を設置しているか <input type="checkbox"/> 教職員、学生に対し、法令遵守に関する研修・教育を行っているか	4	法令、指定規則等を遵守するとともに必要な規程等も備え、運営している。 法令遵守については機会あるごとに指導等を図っている。	定めている規程に基づく細則づくりなどが残されている。		学則 学則・諸規定検討委員会規程 個人情報保護委員会規程

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
法令等を遵守した運営に渡めるとともに規則の整備や組織も置かれている。	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	池田 敏宏
--------	------------	-------	-------

## 9-33 個人情報保護

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	<input type="checkbox"/> 個人情報保護に関する取扱方針・規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 大量の個人データを蓄積した電磁記録の取扱いに関し、規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 学校が開設したサイトの運用にあたって、情報漏えい等の防止策を講じているか <input type="checkbox"/> 学生・教職員に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施しているか	4	<p>個人情報の保護に関しては規程のもと組織的な対応に努めている。</p> <p>学校のサイトについても委員会で協議、個人情報保護方針、利用規約に基づき更新・管理している。</p> <p>学生等に対する情報管理については機会あるごとに啓発・指導に努めている。</p>	電磁情報の管理についての規程が残されており、検討が必要である。		個人情報保護委員会規程 SNS関係文書等

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個人情報については、学内で個別の管理を行っており、厳格な対応を図っている。SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）に関しては学生に対し利用にあたっての注意を文書化して指導している。	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	池田 敏宏
--------	------------	-------	-------

## 9-34 学校評価

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか <input type="checkbox"/> 実施にかかる組織体制を整備し、毎年度定期的に全学で取組んでいるか <input type="checkbox"/> 評価結果に基づき、学校改善に取り組んでいるか	4	規程のもと実施組織において毎年、実施しており結果を踏まえた対応に努めている。			自己点検・評価委員会規程
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか <input type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	4	報告書として取りまとめている。		ホームページに掲載することになっている。	
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか <input type="checkbox"/> 実施のための組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 設置課程・学科に関連業界等から委員を適切に選任しているか <input type="checkbox"/> 評価結果に基づく学校改善に取り組んでいるか	3	規程のもと関連する業界等からなる委員による組織を整備し、取り組んでいる。			学校関係者評価委員会規程
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか <input type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	3	報告書としてとりまとめている。		ホームページに掲載することになっている。	



中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自己評価・学校関係者評価とも組織規定のもと、実施している。	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	池田 敏宏
--------	------------	-------	-------

## 9-35 教育情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	<input type="checkbox"/> 学校の概要、教育内容、教職員等教育情報を積極的に公開しているか <input type="checkbox"/> 学生、保護者、関連業界等広く社会に公開しているか	4	教育内容等については入学案内、ホームページをはじめ積極的に公開している。保護者との面談会や広報の配布、業界との意見交換会の開催といった取り組みを行っている。			入学案内

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
関係者に対する教育内容等の公開に努めている。	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	池田 敏宏
--------	------------	-------	-------

## 基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>地元自治体や自治会などと連携した健康増進活動はもとより小学校などへの出前講座や体力測定といった専門性を生かした取り組みは継続して行っている。</p> <p>学校施設は卒業生はもとより地域に開放しており経済団体などとの交流も行っている。</p> <p>高校のキャリア教育に際し教員の派遣を行うとともに、高校生を受け入れた体験授業も行っている。</p>		

## 10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	<input type="checkbox"/> 産・学・行政・地域等との連携に関する方針・規程等を整備しているか <input type="checkbox"/> 企業や行政と連携した教育プログラムの開発、共同研究の実績はあるか <input type="checkbox"/> 国の機関からの委託研究及び雇用促進事業について積極的に受託しているか <input type="checkbox"/> 学校施設・設備等を地域・関連業界等・卒業生等に開放しているか <input type="checkbox"/> 高等学校等が行うキャリア教育等の授業実施に教員等を派遣するなど積極的に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 学校の実習施設等を活用し高等学校の職業教育等の授業実施に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 地域の受講者等を対象とした「生涯学習講座」を開講しているか <input type="checkbox"/> 環境問題など重要な社会問題の解決に貢献するための活動を行っているか <input type="checkbox"/> 教職員・学生に対し、重要な社会問題に対する問題意識の醸成のための研修、教育に取り組んでいるか	3	<p>リハビリテーション関連団体や地域の教育関係団体。さらには地域の民間事業者が催す研修や催し物会場としても学校を開放している。</p> <p>中・高校からのキャリア教育の講師として教員派遣も積極的に行っている。</p> <p>オープンキャンパス時の「公開講座」では、地域の住民の生涯教育の一旦も担っている。</p> <p>SNSなど大切な社会情勢への認識・心掛けについては機会あるごとに学生、教職員で取り上げている。</p>	より一層、産・学・官・地域の連携のもと専門性を生かした貢献策の検討をより一層進めていくことにしている。		学校施設利用申請書 講師派遣依頼書

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
10-36-2 国際交流 に取り組んでいる か	<input type="checkbox"/> 海外の教育機関との国際交流の推進に関する方針を定めているか <input type="checkbox"/> 海外の教育機関と教職員の人事交流・共同研究等を行っているか <input type="checkbox"/> 海外の教育機関と留学生の受入れ、派遣、研修の実施など交流を行っているか <input type="checkbox"/> 留学生の受入れのため、学修成果、教育目標を明確化し、体系的な教育課程の編成に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 留学生の受入れを促進するために学校が行う教育課程、教育内容・方法等について国内外に積極的に情報発信を行っているか		海外からの受け入れは行っていない。	留学生の受け入れ等国際交流の促進を図ることについては、今後の検討課題である。		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
地元自治体等との連携、高校生の受け入れや出前授業の開催など地域に根ざした多様な取り組みは活発化してきている。 国際交流の取り組みは中・長期的な課題である。	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	清岡 学
--------	------------	-------	------

## 10-37 ボランティア活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	<input type="checkbox"/> ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励しているか <input type="checkbox"/> 活動の窓口の設置など、組織的な支援体制を整備しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を把握しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を評価しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動結果を学内で共有しているか	4	積極的なボランティア活動推進は変わっていない。窓口を設け依頼を受け、掲示するとともに教員が直接学生に協力を求めている。活動状況は保管し、ボランティアの成果は諸活動を通じて共有している。			ボランティア受付簿 活動実績

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
地域だけではなく、病院・施設からの要望に応えることで、人間は社会的存在であるという意味を学生にも感じ取ってもらいたく、学校としてボランティア活動を積極的に推進しているし、要請と参加学生は増加している。	

最終更新日付	2018年3月31日	記載責任者	清岡 学
--------	------------	-------	------

## 4 平成29年度重点目標達成についての自己評価

平成29年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>(1) 先進・進取の教育の推進</p> <p>(2) 目的意識を持つ学生の確保</p> <p>(3) 有為な人材の育成</p>	<p>(1) 国の社会保障政策を見据えた授業科目の設定、医科学の進展に合わせた実習や演習の展開を図るとともに、教員の教授力の向上、資質を磨く研究活動の推進に努めた。</p> <p>教育環境の面では、昨年度の最先端のシュミレーション教育機器の導入に続き、生活行為向上支援システムの導入を図るなど、新たな整備に努めた。</p> <p>(2) 県内外の学校訪問や出前講座、県内高校進路指導教員招へい事業を行ってきている。</p> <p>年間6回開いているオープンキャンパスや高校をはじめ各地での進学相談会といった取り組みを積極的に推進し、社会の趨勢とリハビリテーションの重要性、療法士の役割などの浸透に努めた。特にオープンキャンパスへの来校者に対しての体験授業をはじめとしたガイダンスには、力を注いでおり、平成29年度の参加者は472名であった。平成30年度の入学者は120名と昨年より11名多かったが、全学科で定員を下回った厳しい状況を大学化による再編により打開していけるよう取組んでいる。</p> <p>(3) 高度な技能の習得に欠かせない先端医科学の教育機器の導入を促進するとともに個人学習プログラムに基づく学生教育を進めるなど、一人ひとりと向き合った指導育成に努めた。</p> <p>高知高校とのフェロシップ（8名）による一貫した人づくりを推進し、しっかりした職業観を持った学生リーダーの育成を図った。</p> <p>国家試験については、106名（新卒）の合格者であったが、全国平均を下回る合格率となった学科もあったことから徹底した対策を講じていく必要があるため、平成27年度に設置した国家試験対策室を中心に、全学科あげての原因解析と対策の徹底を図っている。</p>	<p>学生のスキルアップに重点的に取り組んでいくとともに、教員の研鑽、研究活動の促進を図り教授力の総合的な向上に努めていく。</p> <p>少子化の進展等に伴い学生募集に関する取り組みには特に力を注いでいく必要があることから学校訪問をはじめ教職員あげて対応していく。</p> <p>国家試験については、全員合格を目指し、カリキュラムの改編も含め指導を徹底していく。</p> <p>専門職大学への再編移行については、平成29年11月に文部科学省に認可申請を行い、所管審議会での審査を受けるなど協議を深めている。</p> <p>平成31年4月の開学を目指しており、平成30年の認可に向け一丸となった取り組みを進めていく。</p>